

第89回国立歴史民俗博物館運営会議議事要旨

日 時 令和5年12月7日(木) 10:31~11:58
場 所 国立歴史民俗博物館 大会議室 及び Zoom会議
出 席 者 [館外運営会議委員]
市澤委員(副議長)(Zoom)、梅崎委員(Zoom)、江村委員、小澤委員、木川委員、
坂上委員、鈴木委員(Zoom)、徳丸委員(Zoom)、Batten委員(Zoom)
[館内運営会議委員]
山田委員(議長)、関沢委員、小倉委員、坂本委員、高田委員、松木委員(Zoom)、
大久保委員、林部委員、日高委員、三上委員
欠 席 者 木下委員、村上委員
陪 席 者 館長、管理部長、総務課長、財務課長、研究協力課長、博物館事業課長、
総務企画係

会議開会にあたり、西谷館長から挨拶があった。

続いて、総務課長から、定足数の説明があり、出席委員19名により本会議が成立している旨報告があり、併せて配付資料の確認が行われた。

○議 事

(1) 前回議事要旨確認

山田議長から、資料1に基づき、前回(令和5年10月26日開催 第88回国立歴史民俗博物館運営会議)議事要旨(案)の確認が行われ、原案どおり承認された。

(2) 審議事項

①令和6年度新規共同研究課題について

山田議長から発議があり、小澤共同研究委員会委員長から、資料2に基づき、令和6年度新規共同研究に係る共同研究委員会の審議結果について説明があった。

審議の結果、5件の令和6年度新規共同研究(基盤研究1:2件、基盤研究2:1件、開発型共同研究:2件)について、原案どおり承認された。

木川委員から、資料にある新規共同研究ヒアリング回答票について、質問や修正内容がわかりやすくとても良い資料なので、今後も続けていただきたいと発言があった。

②令和6年度継続共同研究課題について

山田議長から発議があり、小澤共同研究委員会委員長から、資料3に基づき、令和6年度継続共同研究に係る共同研究委員会の審議結果について説明があった。

審議の結果、9件の令和6年度継続研究課題(基幹研究5件、基盤研究4件(うち課題設定型2件、館蔵資料型1件、歴博研究映像1件))について、原案どおり承認された。

(3) 報告事項

①国立歴史民俗博物館次期館長について

山田議長から、資料4に基づき、次期国立歴史民俗博物館長として西谷大氏が再任することとなった旨、報告があった。

②共同研究委員会報告について(令和5年11月29日開催)

・人間文化研究機構基幹研究プロジェクト・共創先導プロジェクトについて

小澤共同研究委員会委員長から、資料5に基づき、令和4年度基幹研究プロジェクトと共創先導プロジェクトの実績報告書について、報告があった。

③資料収集委員会報告について（令和5年12月4日開催）

・令和4年度受け入れ資料について

市澤資料収集委員会委員長から、資料6に基づき、令和4年度に受け入れた資料について報告があった。

④第4期中期計画に係る自己点検・評価について

関沢委員から、資料7に基づき、人間文化研究機構における第4期中期計画に係る自己点検・評価について、経緯や自己点検の評価結果などについて報告があった。また、歴博においても、機構の創発センター基幹研究プロジェクト・共創先導プロジェクトと同様に、機関拠点型基幹研究プロジェクトについて、外部からの助言を行う体制として、アドバイザーボードを設置した旨の報告があった。

⑤大学等連携推進状況について

山田議長から、資料8に基づき、令和5年12月7日時点における協定等の連携協議状況一覧について、報告があった。

⑥議事要旨の歴博ホームページでの公表について

山田議長から、資料9に基づき、運営会議の議事要旨を、会議での承認後、歴博のホームページに掲載していくことについて、報告があった。

坂上委員から、公開する議事要旨とは別に議事の詳細を確認できる資料を作成した方がよいとの意見があった。

⑦歴博の活動状況について

山田議長から、資料10に基づき、歴博の活動状況について報告があった。

続いて、林部委員から、開催中の第1展示室特集展示「北の大地が育んだ古代」の展示概要及び当該展示が共同研究の成果であることについて、説明があった。

(4) その他

特になし。

会議閉会にあたり、西谷館長から歴博の根幹となる共同研究の審議への謝辞と共同研究、展示の状況について説明があった。また、大学共同利用機関として、歴博が行っている研究をわかりやすくアピールし、ファン・フォロワーを広げていきたいとの発言があった。

木川委員から、奨学金の返還免除が廃止され、教員・研究者になりたい学生が減っている。後進の研究者が育たないのではと危機感を持っているとの発言があった。

鈴木委員から、オホーツクの展示（第1展示室特集展示）は、研究成果を発表する場を頂くとともに、更なる研究の発展が期待されるとの発言があった。また、東京大学でも、地域連携という考えを展開しているが、発表する場が必ずしも豊かではないので、歴博の研究と結びついていくことを、今後も期待するとの発言があった。

徳丸委員から、歴博の共同研究やRAに若手研究者を参加可能としていることは、走り始めの若手研究者が幅広い研究者との交流する機会となり、研究者として大きく育っていくきっかけとなっているとの発言があった。